

## 2014 年度 小委員会活動成果報告

(2015 年 2 月 5 日作成)

小委員会名	ユーザー・オリエンティド・デザイン小委員会	主 査 名：西出 和彦 就任年月：2014 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会 (計画基礎運営委員会)	委員長名：大原 一興 主 査 名：西出 和彦
設 置 期 間	2012 年 4 月 ～ 2016 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的：「ユーザー・オリエンティド」(利用者中心)の理念を活動方針とし、いかなる心身状況でも利用可能な建築環境の構築を目指した研究活動を展開</li> <li>・今年度課題：「ニーズを反映した建築の計画・デザインを生み出す手法の検討」を重点課題として、研究会を開催し研究成果を積み上げる。</li> </ul>	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：有 主査：西出和彦(東京大学)、幹事：松田雄二(お茶の水女子大学)、菅原麻衣子(東洋大学)、委員：石垣文(広島大学)、石橋達勇(北海学園大学)、佐藤克志(日本女子大学)、鈴 義弘(大分大学)、田中賢(日本福祉大学)、富永哲雄(大阪市立大学)、西野 亜希子(東京大学)、原利明(鹿島建設)、藤井容子(香川大学)、山崎晋(明治大学)室崎千重(奈良女子大学)、加藤悠介(豊田工業高等専門学校)計 15 名	
設置 WG (WG 名：目的)	「ユーザーのニーズを反映した建築計画・デザインを生み出す手法」(仮称)出版 WG： 次の 3 つの事柄をまとめ、委員会活動の集大成として書籍の出版を目指す。1) 新たなユーザーの「発見」、2) 新たなユーザーニーズの把握と具体的な建築への展開、3) それら具体的な成果の一般化、普遍化の可能性の追求	
2014 年度予算	135,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	2 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	第 6 回研究会「発達障害をもつ学生の困難とニーズから大学キャンパスの学習・教育環境を考える - 建築系・工学系の専門教育方法と建築環境配慮を中心に -」 (2014 年 7 月 12 日開催) <span style="float: right;">参加者数 34 名</span>
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 委員会(WG 合同)を 2 回開催し、これまで実施してきた各公開研究会の成果の取りまとめ方、書籍化に向けての執筆・編集方針や役割分担について決定した。 2. 第 6 回の公開研究会を企画・実施し、近年認識が高まっている発達障害学生のニーズの把握手法、および建築デザインへの反映方法について議論を深めた。 3. 出版 WG において執筆作業を進め、第 1 段階のとりまとめを終了し、編集担当委員の査読を行い、査読結果を修正稿の執筆を行った。
委員会活動の問題点・課題	出版企画について、当初予定の 2014 年中の本委員会への査読依頼が遅れ、2014 年度中の査読依頼となった。

\*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

\*表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。